

「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」

(創世記 2 章 24 節)

創世記のこの部分は、結婚が世界のそうぞう以来神の意志であることを示します。ファリサイ派の人々が 主イエスに離婚の可能性について尋ねた時、主イエスはそれを認めました。

結婚秘跡を通して男と女は一体となり、家族を始めます。その結果、彼らは子供を持つことができ、社会は存続し、教会は使命を続けることができます。しかし、特に日本では 若者は結婚したり教会に参加したりすることを望まないようです。

確かにこれはカトリック教徒にとって偉大な課題です。でも、2025年の聖年が私たちにインスピレーションを与えているように私たちは希望の人々となるよう求められています。

ですから、特に若者に 家族の価値と結婚秘跡の素晴らしさを宣べ伝えましょう。男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となるからです。